

令和元年度 第1回 高知県社会貢献活動支援推進会議 (要旨)

開催日時：令和2年2月17日(月)10:00～12:00

場 所：高知共済会館 4階 浜木綿

議 題：次第参照

1 開会

(事務局)

開会の挨拶。

各委員の紹介。(出席11名 欠席2名)

2 会長、副会長の選出

高知県社会貢献活動支援推進会議の設置要綱第3条に基づき、委員の互選により、会長、副会長の選出。

3 (1) 第4次高知県社会貢献活動支援推進計画に基づく支援策について

(事務局、ボランティア・NPOセンター)

資料1の説明。

(委員)

資料1：7ページの2の④「県職員のNPOへの短期派遣研修の実施」について、どういう部署の参加が多いか。

(事務局)

担当窓口である当課が多い。また、福祉関係の部署の方が福祉関係のNPO団体へ行く、というように日々の業務に関連するようなNPO団体への派遣が多い。

(委員)

資料1：10ページの2の②「災害ボランティア活動支援本部ネットワーク会議の開催」について、「成果及び課題」欄に記載されている令和元年11月28日に開催された会議の構成メンバーの企業団体とは、どのような企業か。

(ボランティア・NPOセンター)

個別の企業ではなく、経営者協会、連合高知等の企業団体。

(委員)

金融業や小売業(量販店)も災害時には全面協力することになると思う。今後大規模災害が予想される中、そういったメンバーも参加することでより実務的な会議になると思う。

(ボランティア・NPOセンター)

今後、検討したいと思う。

(委員)

資料1：8ページの1の②「集落活動センターや子ども食堂の立ち上げ支援」について、実績として

子ども食堂が新たに8か所設立されている。ただ、立ち上げることが目標になっているが、立ち上げ後の自立へ向けた支援も同じくらい重要だと思う。自立に向けてどのような支援があるか。

(事務局)

集落活動センターや子ども食堂については、県の主要事業の一つである。立ち上げ件数を目標にしているが、維持することも事業に含まれている。事業を継続的なものにするために、運営経費にも充てられる補助金や、運営上の課題解決のためのアドバイザー派遣などの支援策を用意している。

(委員)

補助金などの行政支援がなくなると事業運営が行き詰まる、という現場の声も聞くので、そうならないよう自立に向けたさらなる支援を進めてほしい。

(事務局)

いただいた意見を担当課に伝え、連携して進めていきたいと思う。

(会長)

集落活動センターの運営団体が非営利組織である場合、財源の1番の柱は事業収入であるが、それ以外にも多様な財源調達、すなわち民間助成や寄附などいわゆるファンドレイジングが重要になると思う。集落活動センターの数が増えてきている現在、財政基盤の多様化についての研修会等を実施し、新しく立ち上げたところも含めセンターと情報を共有していくことが必要だと思う。ぜひ今の社会貢献活動の推進に向けた取組について集落活動センターにも発信されてはどうか。

(事務局)

第4次社会貢献支援推進計画では、集落活動センターを含めた社会貢献活動団体が自立していくことも柱になっている。今後もしっかり連携してそのような方向で取り組んでいきたいと思う。

(委員)

資料1：1ページの1の③「教育・研究機関を通じたナツボラの周知」について、参加団体や参加者も増え、すごく盛り上がってきているが、課題も出てきている。その一つとして、「学校の宿題としての参加」など、本当にボランティアをしたいと思っていない参加者が見受けられるようになったことがある。受け入れ側の団体もその活動を理解している人に参加してもらうため、参加の条件等を厳しくするところも出始めた。「今後の取組」欄に「夏休みの宿題等で参加する学生への対応を検討する」とあるが、学生だけではなく、送り出す側の学校や先生にも働きかけをしていくことも大事だと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

積極的な学校は事前に先生から連絡が来て、ナツボラの趣旨等の意見交換をすることも多い。しかしそういったことが少ない学校から参加する学生にはボランティア活動への意識が低い傾向があると感じている。その対策として、モチベーションが低い人や、ボランティアのことについてあまり知らない人向けの入門プログラムを増やすことを検討している。例えば、今年度「切手を使った簡単なボランティアが、災害支援につながる」というプログラムを、ボランティアについての座学を入れて実施した。ボランティアに関心はあるけれどよく知らない学生や、宿題のために参加した学生にもこんな簡単なことでもボランティアになるのだということを感じてもらうことで、ボランティアへの理解を深め、興味を持ってもらうことができた。今回は福祉交流プラザで実施したが、今後は各市町村の社協と連動しながら各地域で開催し、そこをファーストステップにすることで、ミスマッチを減らしていきたいと考

えている。ただ、学校や先生への対策は、担当窓口が分からないところも多く、今後の課題である。

(会長)

資料1：6ページの2の②「休眠預金の学習会を3月に実施予定」について、休眠預金の活用の現状について説明をお願いします。

(ボランティア・NPOセンター)

昨年11月に資金分配団体が決定したが、四国から選ばれた団体はなかった。地域ブロックでエントリーしていて「組織基盤の整備や申請事業計画の見直し等を行えば」という条件つきで可能性がある団体が一つという状況である。今、高知県の団体が休眠預金を活用しようとする場合、全国公募の事業に応募しないといけない。しかし、休眠預金の分配後の事業の継続性を担保するため、事業資金の20パーセント分を自己資金で用意することが条件になっており、県内でこの条件を満たすことができる団体は少ない。

ただ、事業資金の80パーセント分を休眠預金で活用できることは魅力的な支援策なので、多くの団体に関心を持ってもらうために学習会を3月に開催する予定である。NPOと市町村がつながるツールにもなるし、次の展開を考えているNPO団体には有効な財源の確保にもつながるので、周知を進めていきたいと考えている。

(会長)

休眠預金は、全国的な大きな流れもあるにも関わらず、動きが見えづらい状況である。機会損失にならないように、県の方でも情報収集し、共有できる場をつくってもらいたい。

(委員)

資料1：1ページ1の②「SDGsに向けた取組が広がる中で、今後の社会貢献活動の周知の方法を検討する必要がある」について、SDGsを、県の新しい産業振興計画の中にも盛り込んでいくと伺っている。土佐町でも具体的な取組はまだであるが、同様に政策に盛り込んでいくことを考えている。これは、人材確保の観点だけではなく、財政基盤の充実にも活用できる考え方ではないかと思っている。

例えば、事業分野にもよるが、企業のCSR活動の中で、NPO活動に賛同できる民間企業から資金提供を受ける取組が考えられる。資料1：2～3ページの「実施項目」の「財政基盤」の行動計画として、SDGsを切り口にした民間企業との連携という視点があってよいと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

SDGsは、企業の本来の活動が社会貢献につながるという考え方が広がっていくという点で着目している。昨年SDGsの啓発セミナーなども開催したが、環境分野の企業であれば、環境問題の解決ということでNPOと連携しやすい。ただ、それ以外の分野では、企業とNPOが具体的にどういった連携をしていくのか見えておらず、今後の検討課題である。現在、NPO高知市民会議ともこの「企業との連携」に向けた取組について議論しているところである。

(会長)

第4期高知県産業振興計画の中に、SDGsの考え方が盛り込まれることで、産業振興やCSRといった観点で企業等が、地域課題の解決にも乗り出していく際には、NPOセクターとの協働という観点も大事と思う。今後、どのように県の取組にSDGsの考えを盛り込んでいくのか、説明をお願いします。

(事務局)

産業振興計画にSDGsの考え方を盛り込むということは決まっているが、まだ具体的にどのような政策に盛り込むのか、ということまでは決まっていない。当課でも同様の状況であり現時点では説明できない。

(事務局)

例えば、消費者志向経営というような考え方はSDGsにつながるのではないかと考えている。企業が消費者の視点でSDGsに取り組むことで、NPOの財政基盤の強化にもつながるのではないかと考える。

(委員)

以前は業界の会合でも社会貢献活動やCSRなどのテーマが取り上げられていたが、現在はSDGsにどんなふうに取り組むか、というテーマ一色である。しかし、SDGsは範囲が広すぎて、具体的な活動に結び付けることが難しく、各企業でも苦心をしている。我々の業界の中でも先行してSDGsに取り組むと宣言しているところがいくつかあり、そういった企業の取組を見ながら、それぞれの企業が目標を絞って取り組んでいるというのが現状である。

(会長)

SDGsは、今、NPOが目指す目標と、企業が目指す目標とを共有化しやすくするツールだと思う。これを活用することで、これまでよりNPOの活動を企業に知ってもらいやすくなると思う。NPOと企業を具体的にマッチングする機会を設けるといったことも検討していければいいと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

産業振興計画もそうであるが、県の林業分野、環境分野でSDGsの取組を推進している場面は増えていると思う。今後、県のSDGsの取組とNPOをつないでいくため、県民生活・男女共同参画課で、情報を整理し、行政とNPOがコラボする機会をつくるようにしてほしい。

(委員)

こうち生活協同組合の今年のCSRレポートの中で、組合の各事業がSDGsの17項目の中のどれに当たるのか、わかりやすくまとめている。参考にさせていただければと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

資料1：2ページの2の③「認定NPO法人への移行促進」について、認定の要件であるPSTのハードルが高くなかなか認定にたどりつけない、という相談をよく受ける。現状の情報提供や相談支援だけでは認定NPO法人を増やしていくのは難しいと思う。条例個別指定という、地方自治体が一定の基準を定め、それをクリアするNPO法人を条例で指定し、認定NPO法人のように税金の控除を受けられる制度がある。これにより認定NPO法人への移行をより活性化できると思うので、県として条例の制定を検討していただければと思う。

第4次推進計画を策定の際、ファンドレイジングセミナーなどと同じく「財政基盤の充実に向けた取組の強化」のところでは計画に入れてはどうかと提案したが、これから検討する、という回答だったので、改めて申し上げた。

(事務局)

第4次推進計画の中で認定NPO法人の増加は目標に入っている。その支援策として、計画策定時に

は、まずは認定NPO法人のメリットを周知させるセミナー等を実施することが有効ではないか、という話だったと思う。現時点では条例の個別指定の実施は考えていない。それが認定NPO法人の増加に有効であることが認識できれば検討するが、まずは他県の事例なども含めて勉強していきたい。

(会長)

情報収集し、可能性を探るようお願いする。

3 (2) その他について

(委員)

資料1の中の実施主体に「大学」と記載されているところがあるが、これは委員の私が何か取組をやるということか。それとも大学の責任者等との窓口になり、一緒に取組を進めていくような感じか。

(事務局)

委員には、大学との窓口をお願いしたい。計画の中でも大学と連携できる部分を増やしていければと思っている。次世代を担う人材育成という観点からも重要なことだと思う。

(委員)

県職員のNPOへの短期派遣研修への参加についてだが、最近、人口減少が進んでいる中、どこも人手不足になってきている。社会をうまく進めていく一つの方法として、県職員も含めて県民みんなが社会貢献活動に参加し、2枚目の名刺を持つようになれば、地域社会の発展につながるのではないかと思う。

(委員)

私たちの団体でも、県職員の短期派遣研修の受け入れ回数を増やすなどの協力は可能である。

(委員)

「社会貢献活動の周知」について、活動に興味を持ってもらうためにもっと周知が必要だと思う。各市町村で発刊している広報誌を利用することは効果的だと思うが、どのくらいできているか。

(委員)

高知市では、市民活動サポートセンターがたまに広報誌に載せているが、スペースの関係で大きなイベントのときくらいしか掲載されていないのが現状である。どんなNPOがあって、その活動内容や活動場所などの情報を載せるということまでは、できていない。

(委員)

県民はNPO活動を、身近に感じられる機会が増えればいいと思う。パンフレットなども作成しているようであるが、そのパンフレットをどこで配布している、といった情報を発信できるといいと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

県民にNPO活動を知っていただく機会として、2月29日にNPOフォーラムを開催する。指摘していただいたように、広報活動は我々の中でも大きな課題と考えている。パンフレットなどを作成しているが、配布している場所や部数が限られており、一般の方に広く届けるのは難しい状況である。そのため、市町村の広報誌に我々の活動を取り上げていただくと非常に効果的だと思うので、県からも各市町村に働きかけていただくとありがたい。

(副会長)

平成の市町村合併があつて十数年たつが、人口減少が進み、地域は疲弊してきている。各市町村でもいろいろな計画を立てているが、県の計画と歯車があつていないことも多くあると思う。県の方で旗振りをし、各市町村と連携を深め、地域の維持や利益の獲得に向けて高知県全体で進んでいけるようお願いする。

(事務局)

県でもいろいろな計画があるが、中心になるのが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」である。その下に、戦略を実行していくための産業振興計画など様々な計画はあるが、県全体を盛り上げていくためにも社会貢献活動支援推進計画もしっかり連動させていく必要がある。実効性をあげるためにも各市町村としっかりと連携して取り組んでいきたいと思っている。

(会長)

予定の議事は全て終了した。事務局へお返しする。

(事務局)

以上をもって、令和元年度第1回高知県社会貢献活動支援推進会議を終了とする。